

第13回 加賀温泉駅施設整備検討委員会 議事録

■会議概要

- ・日時 : 2024年2月22日(木) 9:30~11:30
- ・場所 : 市役所別館3階 302会議室
- ・出席者 :

出欠	所属・職	役職	氏名
出	金沢工業大学 教授	委員長	水野 一郎
出	公立小松大学 教授	副委員長	高山 純一
欠	加賀市商工会議所 総務企画委員長	委員	竹内 和良
欠	山中温泉観光協会 会長	委員	桂田 史郎
欠	山代温泉観光協会 会長	委員	和田 守弘
欠	片山津温泉観光協会 会長	委員	金子 達郎
出	加賀商工会議所女性会 理事	委員	丸谷 朱美
出	加賀市美術協会 理事長	委員	河島 洋
出	古場田デザインスタジオ プロダクトデザイナー	委員	古場田 良郎
欠	加賀まれびと交流協議会	委員	師池 敬子
出	かが緑化研究会	委員	田畑 智日
出	山代温泉旅館協同組合 理事長	委員	新滝 英樹
出	加賀まれびと交流協議会 副会長	委員	小中出 佳津良
欠	石川県土木部都市計画課 課長	委員	竹内 憲一
出	金沢工業大学 教授	アドバイザー	蜂谷 俊雄

(事務局) 加賀市建設部 嶽野部長
新幹線対策室 高辻室長、寺山リーダー、田中、篠籐
株式会社金沢計画研究所 漆崎所長、水口
ミナミデ建築設計事務所 南出

■議事概要

(1) 駅周辺施設整備スケジュールと現状について

歩行者支援施設コロネードのバス乗降所など、雨を防ぐことに十分配慮して整備しているのであれば問題ない。

(2) 広場計画の変更に伴うガレリアのデザイン見直しについて

現設計が完成した4年前からコロナ禍を経た今、駅前における新たな空間機能が求められる中で、今回の変更案は市民活動を活発にする空間であり、“新幹線駅舎の和の風情を邪魔せず、未来型の都市を連想させる施設”であることから、この変更を新たな挑戦ととらえ、概ね賛成とする。ただし、地域との一体化をテーマにした屋根空間と外部空間の使い方について、市民、議会、関係団体等と共に議論を進めていくこと。

■議事詳細

1. 嶽野建設部長挨拶

3月16日にいよいよ北陸新幹線加賀温泉駅が開業を迎える中、加賀温泉駅は他の駅前とは違い開業までに完成しないが、訪れる人をおもてなしできるように開業に向け全力で取り組んでいる。

前回の第12回検討委員会は令和3年11月に開催され、前回の議案である広場計画の見直しについて、様々な団体から活用の仕方などの意見を聞く必要があるとご意見をいただいた。

今回は広場計画の変更に伴うガレリアの見直しであり、市としてはこの施設のにぎわいを生み出す場所にしたいと考えている。ぜひ忌憚のないご意見をいただきたい。

2. 水野委員長挨拶

今回の議題は駅前広場計画の変更に伴うガレリアデザインの見直しという重大な案件になるので、委員のみなさんで慎重に検討していきたいと考えている。

3. 報告事項：スケジュールと現状

○事務局から説明

はじめに、全体のスケジュールについて説明します。既に発表されていますように、3月16日に北陸新幹線金沢・敦賀間が開業いたします。開業に間に合わないスケジュールとなった高架下に建築中の「にぎわい交流施設」ですが、来年11月にオープンする予定です。また、3月の開業後に仮駅舎を取り壊した後、屋根施設のガレリア建築に着工し、令和8年3月に駅前広場をグランドオープンする予定です。

現在、広場中央にJR仮駅舎が営業していますが、新幹線開業後はこれを取り壊し、その跡地に全天候型広場施設であるガレリアを整備する予定です。

加賀温泉駅南側の温泉中央口広場ですが、アビオシティがある東側をバスエリア、西側をタクシーと一般車のエリアとして整備中です。温泉中央口の整備イメージですが、東側は新幹線駅に沿った形でイベント空間を創出しており、キッチンカーも入れるよう整備しています。アビオシティに沿った歩道には通路幅約5mの歩行者支援施設コロネードを整備し、雨天でも濡れずに目的のエリアへ移動できます。

高架下に建築中のにぎわい交流施設は、観光情報センターやコンビニのほか、テナント二区画などを整備し、さらに壁面などに九谷焼や山中漆器による装飾を施し、観光客をはじめとした訪れる方々をおもてなしいたします。にぎわい交流施設は、指定管理者により管理することとしており、現在、第1交渉権者と協議中です。協議が整えば、6月に指定管理者が決定する予定です。なお、指定管理期間は、施設オープン予定の来年11月から10年間を予定しております。

加賀温泉駅北側の日本海口広場では、広場内通路に沿って短時間駐車場、駅舎の東側に長時間駐車場を整備しています。また広場内通路に沿ってコロネードを整備しており、雨天でも濡れずに、駅舎間を移動できます。

○質問・意見

高山委員)

資料4p平面図、5pイメージパース、6p写真だが、相違があるように見え、美術館入口までコロネードが延伸しているのか分からない。また、バス乗降所に庇が出ているが、雨を防ぐには十分なのか。

事務局)

一部図面には映っていないが、歩行支援施設コロネードは美術館入口まで延伸している。また、バス高さを考慮して背の高い庇を各バス乗降所に設置してある。

高山委員)

将来施工のギャラリー付近の乗降場についても、庇をつけてもらえれば問題ない。

4. 検討事項：ギャラリーのデザイン見直しについて

○事務局から説明

前回の第12回会議で検討している、広場計画見直しの主な背景ですが、コロナ禍によるライフスタイルの変容です。国が新型コロナウイルス危機を契機としたまちづくりの方向性の指針を示すなか、市街地拠点や交流機能などを重視することから見直しており、開放的なイベントスペースを確保することとしました。

広場計画を見直す前は、広場の外周にコロネードを配置する計画でしたが、見直し後は東側のコロネードの配置を変更して、新たなにぎわい空間を創出しました。この変更に伴い、ギャラリー建設地に隣接する空間を有効に活用するため、ギャラリーのデザインを見直すこととしました。

現計画のデザインは、和風切妻屋根のギャラリーと陸屋根のコロネードを合わせて約1,100㎡ですが、見直し案のギャラリーは、本市が目指している未来型都市をイメージしたデザインとすべく、ガラス張りを基本としており、現計画のギャラリーより500㎡程度大きい、約1,600㎡としております。高さは一番高いところで約14mとなっており、一部二階建てとしており、天気の良い日はコロネードの屋上へ出られるようにしています。また、ギャラリーは東西のコロネードと接続しており、雨天でも濡れることなく駅前広場を移動できる計画としています。

ギャラリー南側の広場空間では、ガーデンシティを考慮した緑化を図りつつ、イベントができるスペースの確保に重点を置き、ギャラリーと一体的に利用できる空間を創出します。

○質問・意見

河島委員)

もともとのギャラリーはクラシックなデザインだったのに新ギャラリーはモダンな建物であり全然違う建物に見える。

ギャラリー南側からも直接美術館にアクセスしやすいように美術館西側にもコロネードを設置すべきではないか。

全面ガラス張りだと地震対策が特別に必要な上、夏はとても暑いのではないか。

事務局)

美術館西側からアクセスするルートは車道横断部を理由にコロネードは設置しないこととした。

地震に関する他事例として、金沢駅のもてなしドームは、今回の能登半島地震の影響を受けてないと聞いており、また、他の施設を見てもガラス構造ゆえに人命を脅かした例は聞いていない。

当市のギャラリーについては、合わせガラスの採用など、設計者と安全性の確保について十分に協議して設計を進めていく。

丸谷委員)

一階のポーチ部分は締め切ることでもできるとの説明だったが、引き戸なら収納場所はどこになるのか。

事務局)

開放感を演出するため、柱に寄せてできるだけ厚さが薄くなるような構造を考えていきたい。引き戸の収納について現段階で具体案はないが、アコーディオンのような収納も検討している。

新滝委員)

周辺の植栽、イベントスペースも大きく変わっているので詳しく説明してほしい。

事務局)

新幹線開業に向けて、加賀温泉駅 50 周年記念イベントや新幹線開業 100 日前イベント等を実施してきたが、駅前に大きなスペースがないという意見を多数いただいていることから、植栽を基本とした計画を取りやめ、ガレリア前面に大きな広場空間を設ける計画とした。

高山委員)

ガレリアは壁面材料だけでなく、屋根材料もガラスなのか。屋根までガラスの場合、構造は金沢のもてなしドームのように天井リングで吊るような構造を想定しているのか。

事務局)

屋根の素材について基本設計ではガラスを想定しているが、実施設計において構造等を含む課題が出てきた場合は、維持管理を考慮して検討していきたい。内側からの景観は、和を基調としたいので、木造ベースにする計画であり、また、大広場として当施設を使用したいため、中央に柱を設けるような構造は考えていない。しかし、木造のみでこの規模の施設を築造するのは難しいので一階部分については一部RC構造にならざるを得ないと考えている。

田畑委員)

ガレリアに二階が設けているが、どのように二階に上がるのか。また、設置の意図も教えてほしい。

ガレリアの屋根雪について、コロネードとの隙間に落ちるか検討しているか。

イメージパースには、ガレリア南側のイベントスペースにテーブルが描かれているが、これは固定式なのか。

事務局)

二階へは階段とエレベータによる昇降を考えており、趣旨としてはコロネードの屋上へ出入りできるようにしている。設置の意図は、にぎわいを促す施設であるガレリアだが、一階での喧騒をさげたいというニーズがあった時の対応のためである。

屋根雪については、庇で受け止めるなどにより対応を考えている。

南広場については、緑化をしない訳ではなく、パースのように一部固定の植樹に加え、プランター、椅子、机など移動できる物の配置により、使う人によってレイアウトを変えられる広場にしたい。

新滝委員)

アビオシティ側の旅館バス駐車場について、斜め駐車ではなくなったのか

事務局)

図面は間違いであり、斜め駐車である。

古場田委員)

ガレリアの構造は、なぜこのように複雑になったのか。また、スペース構築については、ガレリア南側のイベントスペースもあるので2階構造は不要ではないか。例えば芦原温泉駅のアフレアも似たような施設だが、2階はあまり活用されていない様に感じる。

県道沿いの Co 構造物は土留なのか、椅子なのか。夏季、冬季、また降雪時に使い物にならないのではないか。

事務局)

ガレリアについては、未来型都市を連想するものとしたことから、設計者には幾つものイメージパスを作成してもらい“新幹線駅舎の和の風情を邪魔せず、未来型都市を連想させる”という考えのもとに選定した結果がこのデザイン案である。

2階については、先ほども述べたとおり、1階の喧騒と離れたゆっくりとしたスペースの確保に加え、1階部分や広場でイベントが開催される際は、2階からその光景を望むといった使い方もできると考える。

県道沿いの Co 構造物については、地下水位が高いため土を盛る必要があったことから、土留めを設置することとした。しかし、加賀市の玄関口である駅前に100m近く Co 構造物が並んでいるのも無粋と考え、意匠的な観点から石張りした結果、ベンチにも使える形になった。

小中出委員)

ガレリア内の空調はどのように考えているのか。

駅前広場について、以前は水盤のほかサークル状の植栽等があり、“見る広場”だったが、“使う広場”になったと理解する。タイル張りの空間が延々と広がるのであれば、アクセントとして九谷焼などシンボリックなものを設置してはどうか。

事務局)

ガレリア内の空調は設置する考えであるが、大空間になるので、全ての空間温度を調整するのではなく、管理費等を考慮したスポット的な空調を検討している。

シンボリックなものの設置については、重要な検討材料として前向きに検討したい。

高山委員)

ガレリアについて、通常時のハード・ソフト面での活用を何か考えているのか。

事務局)

通常時には移動が可能な椅子やテーブルを置くなどし、くつろげる空間を創出する予定である。ハード面の整備としては、現計画にもある、大型ビジョンやデジタルサイネージ等の設置に加え、

Wi-Fi 整備など完備し、にぎわい空間を創出する計画である。

河島委員)

先ほど九谷焼について話があったが、九谷焼等の焼き物は紫外線に弱く、壁面にしか設置できない。

ガレリアについては、形状は今回の案で決定なのか。今回の案を候補とする際に作成した幾つものイメージパースは、これまで委員の皆さんに見せてきたのか。個人的には計画案に美を感じない。

事務局)

焼き物についてご指導をいただきありがたい。具体的に掲示する際には、専門の職人さん等の意見を聞きながら進めていく。

広場を含めたガレリアのデザインについては、この案を採用したい。未来型都を連想させる建物にしたいという事務局の思いもあり、複数の案を示すと意見が拡散しすぎると考え、事務局で吟味したデザイン案を提示した。

蜂谷アドバイザー)

ガレリアの現計画は、コロナ禍前に完成したものであるが、ここ数年のコロナ禍により地域経済のデジタル化が大きく進むなど社会の変容を受けて、人々の市民活動を活発にするような空間を求めていく計画に見直すべきと感じた。令和8年3月の加賀温泉駅前広場グランドオープンを目指中で、この屋根空間、外部空間の使い方を委員さん含めて短期集中で考えていかなければならない。

水野委員長)

北陸新幹線の延伸は、日本の新幹線整備網の中では最後の方であるが、東海道新幹線、上越新幹線、山陽新幹線等が整備された時代は、駅ができることだけで嬉しく有難いという認識だった。東北新幹線整備の時期より、駅に地域性を持たせ、活動拠点とするべきであるという考え方が広まった。

北陸新幹線でいえば、福井駅では恐竜がお迎えするというインパクトがあり、小松では高架下空間の充実により地域の道の駅のような施設でもある。JR も駅中で黒字をだすため、人を呼び込もうとしているが、”地域と一体化”がテーマであると考えます。

駅前に求められる空間機能の変化、車中心から人中心の空間づくり、ドローンによる移動、ライドシェア活用等といった加賀市が目指すスマートシティ、美術館やアピオシティを巻き込んだ新たな周辺まちづくり等、現在の駅前整備にはまちづくり要素が多く含まれているため、発想を転換していかなければならない。今回の変更案も一つの挑戦だと捉えることができる。

地域と一体化をテーマに成功した道の駅を参考にした上で、市民、議会、関係団体等と共に空間の活用について話し合いを進めていくこと。

細かい修正は当然するが、大まかな方針としては今回の変更案は”概ね賛成”を得たことで本委員会を閉めたい。